



横浜市立市民病院

こころ

第22号

2018.1 発行

横浜市立市民病院だより

Contents

特集 肺がん治療センター

- 市民病院からのお知らせ
- がんセンターからのお知らせ
- 市民病院再整備事業
- 登録医療機関をご紹介します
- おすすめレシピ「あずき粥」
- 病院長コラム

種 名：コアラ

写真提供：公益財団法人 横浜市緑の協会

肺がん治療センター

Cancer Center / Lung Cancer



肺がん治療を“より高度に、より優しく”

肺がん治療は日進月歩の目覚ましい進歩が見られており、診療科の枠を超えた包括的な治療が重要となっています。当院では、肺がん治療の機能強化を図るために、院内に「肺がん治療センター」を設置し、肺がんを扱うすべての診療科、薬剤部、看護部、緩和ケアチームなどが有機的に連携し、それぞれの専門領域の知識を更に集約しています。

最適な肺がん治療を提供するため、内科的治療（化学療法）、外科的治療、放射線治療など多くの選択肢がある中で、患者さんの状態に応じて、根拠に基づいた治療を実施しています。なお、当院は平成18年8月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けています。

●肺がんの診断においては新しい技術である超音波内視鏡や気管支ナビゲーションシステムを取り入れ診断率の向上に取り組んでいます。

●治療に関しては、エビデンスに基づいた治療のみならず、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)などの臨床研究グループに所属し、様々な臨床試験や新規薬剤の治験にも携わっています。

●医師・看護師のみならず、薬剤師・臨床工学技士・リハビリ療法士・ソーシャルワーカーなど幅広い職種がチーム医療として横断的に患者さんを支える体制で対応し、対話に基づいた安全で安心できる治療を提供できるよう心がけています。

内科的治療 (化学療法) 〔呼吸器内科〕

先進的な内科的治療を患者さんの状態に合わせて行っていきます。

患者さんの状態に合わせて、放射線手術などの治療を組み合わせで行っていきます。また、疼痛そのほかの苦痛にも、薬、放射線治療などにより早期から平行的に対応して行きます。抗がん剤には様々な副作用のあるものもあり、それらに対処できる経験豊富なスタッフのもと治療を行っています。

また、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、胸部腫瘍研究グループ(TORG)等の複数の研究グループに所属し、新しい内科的治療（抗がん剤や放射線）の開発や承認前の新規薬剤の治験に積極的に携わっています。

当院が作成した全国規模の臨床試験が2本進行中であり、いずれも当科医師が研究代表者と事務局（プロトコル作成者）を務めています。一つは、高齢者小細胞癌の比較試験で公的研究費(JAMED)を獲得し、JCOGとTORGの共同試験として実施中であり、全国71施設が参加しています（研究代表者：岡本浩明、事務局：プロトコル作成者：下川恒生、三角祐生）。もう一つは、再発非小細胞肺癌に対する免疫療法を用いたTORGの臨床試験



験です（研究代表者：千葉大学・滝口裕一教授、岡本浩明（共同代表、事務局）・プロトコル作成者）・下川恒生、中村有希子。これは厚生労働省先進医療審査部会の厳しい審査を経て先日承認された先進医療の臨床試験であり、29年11月より開始します。

がんセンターや大病院以外の地方自治体病院でこのような全国レベルの大規模臨床試験を複数立案・統率できる施設は当科以外には見当たらず、私達は先進的な内科的治療のノウハウとリサーチマインドを身に付けていると自負しています。

外科的治療〔呼吸器外科〕

根治性とともに体にやさしい手術を行っています。

当院は県内有数の肺悪性腫瘍手術例数があり、肺悪性腫瘍（原発性肺癌・転移性肺腫瘍）に対して、根治性とともに体にやさしい手術を目指しています。内視鏡手術（胸腔鏡手術）にも積極的に取り組んでおり、ほぼ全ての手術で行っております。また、総合病院

である特性を活かし、さまざまな併存疾患の患者さんに対しても対応しております。複雑な手術については心臓血管外科・消化器外科と連携して行っており、各専門医と十分な準備の上で手術を施行しております（例：2010-17年透析





導入中肺がん手術12例全例合併症なし。

入院中や退院後、夜間・休日等に体調に変化があった場合でも救命救急センターとして、各科当直体制も充実しておりますので、迅速かつ適切な対応が可能です。なお、当院は呼吸器外科学会専門医合同委員会から認定修練施設の基幹病院に認定されており、全員が呼吸器外科専門医資格を有しておりますので、安心して治療をお受けいただけます。

放射線治療「放射線治療科」

平成25年より、定位放射線照射(SRT)を実施しています。

放射線治療は、完治を目指した治療から、疼痛などの苦痛を和らげる治療まで、肺がんのあらゆる場面で使われます。

ステージⅠの非小細胞肺がんで、主として合併症や高齢を理由に手術ができない場合、放射線治療が選択されます。その際、可能であれば定位放射線照射(Stereotactic radiotherapy: SRT)を用いることが勧められています。SRTは、一般にピンポイント照射として知られており、放射線を多方向から3次的に一点に集中して治療します。一点に集中するため、従来よりもはるかに多い線量を少ない回数で照射します。そのため、通常照射よりも高く、手術とも遜色ない治療効果を発揮します。

ステージⅡ、Ⅲで手術ができない症例に、完治を目指した放射線治療が行われます。内科的治療(化学療法)と組み合わせることにより、効果が高まることが知られていますので、可能であれば併用します。ステージⅣでは、

局所治療である放射線治療で完治を目指すことはできませんが、骨転移による疼痛、脳転移による神経症状、気道狭窄による呼吸困難など、がんが原因で苦痛を感じている場合に放射線治療を行うことで、症状をある程度緩和することが出来ます。

緩和医療「緩和ケア内科」

より専門的な苦痛緩和が必要な時には緩和ケアチームで対応します。

「緩和ケア」とは病気に伴う心と体の痛みを和らげることです。肺がん患者さんにおいても、病気を治したり、小さくする治療と、緩和ケアを診断時から一緒に行うことが重要です。適切な痛み止めを使用するといった基本的な緩和ケアは、当院では全ての医療者が行える体制を作っており、そのための研修も行っています。

より専門的な苦痛緩和が必要な時には、緩和ケアチーム(医師の他に看護師、薬剤師なども一緒にチームを作ります)が診療に参加します。緩和ケアチームによる病棟回診を毎週行い、必要な時は患者さんから同意を得て、原則毎日チームメンバーが診療に当たっています。

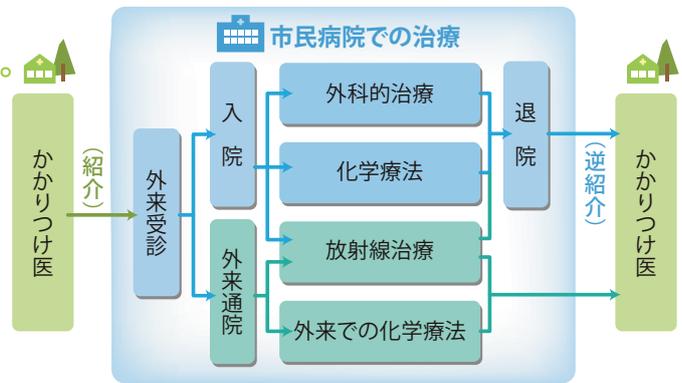


地域の先生方へ

まず、市民病院肺がん治療センター(呼吸器内科・外科)へご紹介ください。

地域のかかりつけの医療機関から紹介を受けて受診された患者さんにつきましては、呼吸器内科・外科で診察させていただきます。

当院の治療後、病状のコントロールがつき次第、かかりつけの先生へ逆紹介させていただいております。高度・急性期病院としての性格上、当院外来における長期フォローアップは難しく、地域の先生との密な連携により、継続的な経過観察を行っていくこととなります。



患者さんの予約受付方法

紹介状をお持ちの患者さんは、下記のとおり診療のご予約をお取りいただくことができます。

1. 地域医療機関の先生方がご予約する場合

☎ **045-341-7224**

(医療機関の先生方用 直通)

受付時間：【平日】8:30~17:00

受付部署：患者総合サポートセンター

2. 患者さんがご自身でご予約する場合

☎ **045-341-5268**

(紹介患者予約センター直通)

受付時間：【平日】9:00~17:00

受付部署：紹介患者予約センター

インフルエンザ対策

～ワクチン接種や咳エチケット、手洗い～



今シーズンは、ワクチン不足の問題で、ワクチンを接種したくてもできない方も多いと思います。しかし、接種すればインフルエンザにかからないわけではありません。ワクチン接種を待ちながら、予防策の咳エチケットや手洗いは、しっかり行いましょう。

インフルエンザの感染経路は、咳やくしゃみの際に発生するしぶき（飛沫）による飛沫感染と接触感染です。最近では、マスクを着用している方も多く見かけます。皆さん、マスクを適切に着用できていますか。自分の顔に合ったサイズを選び、ひだを伸ばして顔の形に合わせる、鼻がでていない等、セルフチェックしてみてください。飛沫感染予防として、**咳エチケット** ①咳やくしゃみを他の人に向けて発しない ②咳やくしゃみが出る時にマスクを着用、マスクがない場合はティッシュや腕の内側などで口や鼻を覆い、顔を他の人に向けない ③鼻汁や痰などを含んだティッシュはすぐにごみ箱に捨て、手を洗うことなど、心がけましょう。

接触感染予防として、**手洗い**も重要です。インフルエンザウイルスは、鼻の周りや環境表面に長時間生存します。知らない間に手にウイルスが付着している可能性がありますので、手洗いで物理的にウイルスを取り除く、アルコール消毒も有効です。その他、休養をとり健康管理に気を付ける、人込みを避けるなど、インフルエンザに「かからない」「うつさない」対策をとりましょう。

フランスの視察団が来院しました



平成29年9月18日から9月22日の5日間にわたり、横浜市と横浜市大との連携協定に基づき、CNEH（フランス／病院環境管理局）に所属する、病院長他管理職を中心とした視察団が来日しました。

当院には視察初日の9月18日に来院しました。前半は日本・横浜市の医療政策、市民病院の経営について講義、後半は院内の見学（薬剤部・感染症病棟・外来ホール等）を行いました。施設見学の合間にも活発な質疑応答がなされるなど、日本における医療、特に病院運営について関心の高さが伺えました。

また、講義後の質疑応答では経営に関するディスカッションも行われ、相互理解が深まり、有意義な時間となりました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続き、2024年の開催地がパリに決定したことから、多数傷病者発生時の対応などについて、今後も積極的に交流を図っていきます。

心臓血管外科 西田誉浩医師が 佐賀大学教授に就任しました



皆様、こんにちは。

心臓血管外科の西田 誉浩です。

私事ではありますが、この度、平成29年8月31日をもって横浜市立市民病院を退職し、9月1日付で佐賀大学医学部教授(胸部・心臓血管外科)に着任いたしました。平成28年3月に市民病院に赴任してからわずか1年6ヶ月の短い間でしたが、市民病院において診療に携われたことは私の中で大きな財産となりました。佐賀大学では教授という重要な役割を任せさせていただくことになりましたので、新天地では市民病院での経験をいかし、臨床はもとより研究や教育にも尽力したいと思います。

これまでありがとうございました。

当院心臓血管外科の西田誉浩医師が平成29年8月31日付で当院を退職し、9月1日から佐賀大学医学部胸部・心臓血管外科教授に就任されました。

西田医師の今後の御活躍を期待しております。

当院退職にあたり、西田医師からメッセージを頂いております。

初開催!

横浜国立大学にてがん啓発講習会を開催しました

横浜国立大学市民病院がんセンターでは初めてとなる、大学向けがん啓発講習会を11月17日(金)に横浜国立大学メディアホールにて、開催しました。

「知っておきたい! 子宮がん・乳がんのこと」と題し、女子大学生や教職員を対象に、がんに関する知識と理解をより深めていただくことを目的に実施しました。

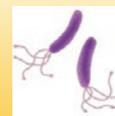
近年、著名人によるがん罹患公表が影響し、若年層でもがんへの意識が高まっているためか、多くの方に来場いただきました。講演会の前後には会場内に設置した乳がん用視触診モデルを実際に触っていただき、セルフチェックの重要性についてもお伝えさせていただきました。

これからも横浜国立大学市民病院がんセンターでは、がんやがん検診啓発を目的に、市民向けの公開講座を企画していきますので、ぜひご参加ください。



横浜市立市民病院 がん検診センター

胃がんリスク検診(ABC 検診) 始めました!



● 検診を受けて 胃がんのリスク管理を ●

胃がんリスク検診(ABC 検診)は胃がんを直接的に発見する検査ではなく、胃がんのリスクを知ることで、胃がんの予防・治療を効果的に行う事を目的とした検査です。

● 血液検査で胃の健康度を判定 ●

1回の採血で2種類の血液検査を実施することにより、胃がんのリスクを判定します。検査はピロリ菌の感染の有無を調べる「ヘリコバクターピロリ抗体検査」と、胃の粘膜の萎縮の度合いで調べる「ペプシノゲン検査」の2種類です。

● 検診料金 ●

5,400円(税込)
※自費検診となります。



● ご予約方法 ●

検診は事前予約制です。予約専用電話でご予約ください。

●予約専用電話 045-333-1581

午前9時～午後4時45分(土日・祝日は除く)

※事前確認事項があるため、電話予約のみとさせていただきます。

● 市民病院再整備事業の進捗報告 ●

新病院の建設工事が始まりました

◆ 新病院建設工事の起工式を執り行いました！

2017年9月7日（木）に多くのご来賓の方々に参列していただき、新病院建設工事の起工式を執り行いました。工事の安全を願った鍬入れを行い、着工しました。

2020年の開院に向けて、いよいよ工事が本格化していきます。



◆ 新病院予定地の風景

写真中央の斜線部が新病院予定地となります。手前が診療棟、奥が管理棟です。

すぐ手前にあるニッパツ三ツ沢球技場と比べるとその大きさがよく分かります。

敷地が開けた状態となり、ここから約2年半かけて新病院が建っていきます。

杭工事の流れ

今回の工事で使用する杭は、直接地面に叩いて打込むのではなく、先に地面に穴を掘っておき、そこにコンクリートを流し込み、固めたものになります。診療棟だけで200本以上の杭が打たれ、建物をしっかりと支えます。



ケーシング（枠）です。



こちらを押し込み穴を掘り



鉄筋カゴを入れ



コンクリートを流し込む！

新病院は2020年開院予定です。

市民病院再整備事業のWEB ページへは

横浜市立市民病院 再整備 で 検索 またはQRコード読み取り▶



新病院イメージ動画公開中！



西 区 横浜循環器呼吸器内科クリニック

当クリニックは、横浜市立市民病院循環器内科に勤務していた松村が2008年に開業し、2013年に横浜駅東口に移転しました。循環器疾患、呼吸器疾患および糖尿病を専門医が的確に診療することを目標としており、詳細な検査や治療などを通して、市民病院と連携した診療もおこなっております。

現在、糖尿病の診療枠が限られておりますが、2018年夏ごろに常勤の糖尿病専門医を迎え、糖尿病外来を充実させる予定です。

【診療科目】

- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 糖尿病内科
- 内科



診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○
15:00～19:00	○	○	○	○	○	△

休診日：日曜日・祝日 ※土曜日は17時まで

〒220-0011
 横浜市西区高島2-14-17
 クレアトル横浜3階
 Tel. 045-450-3330
 mail: mail@yokohama-clinic.com
 URL: http://yokohama-clinic.com

西 区 ながともクリニック



院長 永友 章医師（一番右）とスタッフの方々

当院は呼吸器科としての診断・治療と看取りを含めた在宅医療を両輪としています。呼吸器科は主に喘息や慢性閉塞性肺疾患の診断治療、在宅酸素の管理などが中心です。

診断に関しては、今年モストグラフを導入し、安静呼吸時の呼吸抵抗の測定、また呼気一酸化窒素で気道の好酸球性炎症を評価するなど一般病院でも行えない検査を行っています。在宅医療は、地域の看護・介護事業所と連携し、自宅で看取ることができるように24時間対応で患者さんの生活を支えさせていただいています。

これからもスタッフ一同地域と密着したクリニックとして頑張っていきます。

【診療科目】

- 内科
- 呼吸器内科
- 在宅医療

一般外来	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	—	○	○
15:00～18:00	○	—	○	—	○	—

在宅医療	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	—	—	—	○	—	—
13:00～15:00	○	○	○	—	○	—
15:00～17:00	—	○	—	—	—	—

休診日：日曜日・祝日



〒220-0003
 横浜市西区楠町7-1
 シルエタワーヨコハマ1F
 Tel. 045-314-0063
 URL: http://www.nagatomo-clinic.jp

冬のおすすめレシピ

ことこと豆を煮てお部屋も体もあたたかく

あずき粥

1人当たり栄養量

熱量230kcal、タンパク質8g、脂質0.9g、塩分0.5g

【材料】 2人分（茶碗2杯）

米……………（1/2カップ）80g

小豆……………（大さじ4杯）50g

水……………（3カップ）600cc

好みで塩昆布少々。

（1人当たり栄養量は塩昆布3g入れた計算です）

【作り方】

- ① 米をといで、ザルにあげ水気をきる。
- ② 小豆は流水でさっと洗う。
- ③ 小豆を鍋に入れ、2カップ程度（分量外）の水を加え、火にかける。沸騰後3分ほどしたら小豆をざるにあげて湯をきる。（*渋切り）
- ④ 厚手の鍋（または土鍋）に③を入れて、3カップの水を加え、ふたをして強火にかける。沸騰したら火を弱め40～50分、豆に火が通るまで煮込む。
- ⑤ ④をざるにあげ小豆と煮汁に分ける。煮汁に水を足して3カップになるように調整し鍋に戻す。小豆と①の米を加え、ふたをして強火にかける。
- ⑥ ⑤が沸騰したら軽く混ぜ、火を弱め20分程度煮る。粥が炊き上がったなら火を止め10分程度蒸らす。
- ⑦ 器によそう。好みで塩昆布を添える。

（栄養部 管理栄養士 井尻 玲子）



耳寄り情報！

ホームページでも健康レシピを掲載しています！

横浜の名店シェフと市民病院がコラボして、プロの料理を家庭でも作りやすいように、わかりやすく紹介しています。あわせて栄養士のアドバイスとシェフのコラムも掲載しています。是非ご覧ください。

アクセス方法：<http://yokohama-shiminhosp.jp/introduction/recipe.html>

もしくは、「横浜市立市民病院」→「病院のご紹介」→「ハマの名店とコラボ（健康レシピ・野菜スープ）」→「健康レシピ」



病院長 コラム



病院長 石原 淳

インフルエンザが流行する季節になりました。健やかに過ごすために、手洗いやうがい、あるいはマスクの着用などを必要に応じて行い感染防止に心がけましょう。

さて、今回のところでは、「肺がん治療センター」を紹介させていただきました。

当院では、肺がん治療を「より高度に、より優しく」を目標に、肺がんを扱うすべての診療科、薬剤部、看護部、緩和ケアチームなどが有機的に連携し、それぞれの専門領域の知識を更に統合集約することで、患者さんの状態に応じた根拠に基づく治療を実施してまいります。

最後に、新市民病院再整備事業ですが、9月7日に起工式を執り行い、工事が本格化しています。2020年の開院に向けて、外来フロアに於いて新病院のイメージ動画を放映していますので、来院の際は是非ご覧ください。

横浜市立
市民病院

診療
受付

月曜日から金曜日（土曜日、日曜日、祝日及び年末年始は休診）

○初診の方 午前8:30～11:00（診療開始8:45）

○再診の方 午前7:30～11:00（診療開始8:45）

※市民病院は原則、初診紹介制となっております。他の医療機関からの紹介状をお持ちください。

〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56番地 ☎045-331-1961(代)

編集発行：横浜市立市民病院 広報委員会



○平日日中

原則、救急車で搬送された患者さんのみ受入れを行っています。

○夜間・休日

必ずお電話にて連絡の上ご来院ください。